

令和4年度事業報告

公益社団法人日本馬術連盟（日馬連または JEF）は、令和4年3月10日開催の令和3年度第7回定例理事会において承認された令和4年度の事業計画及び収支予算に基づき、以下の事業を実施した。なお、一部については、期中に補正を行った。

令和4年度の特記事項として、新型コロナウイルス感染症の影響で、9月に中国で開催予定だった杭州アジア大会が1年延期になった。

世界馬術選手権が8月デンマーク・ヘアニング(馬場馬術・障害馬術・パラ馬術)、9月イタリア・プラトーニ(総合馬術)において開催された。日本からは馬場馬術に佐渡一毅選手、林伸伍選手、原田喜市選手、障害馬術に川合正育選手、齋藤功貴選手、佐藤英賢選手、杉谷泰造選手、パラ馬術に稲葉将選手、高嶋活士選手、宮路満英選手、吉越奏詞選手、総合馬術に大岩義明選手、北島隆三選手、田中利幸選手、戸本一真選手がそれぞれ出場した。戸本一真選手とヴィンシーJRA 号が個人戦で世界選手権総合馬術における日本代表の過去最高順位である8位となった。

その他の国際競技における特に優秀な成績として、9月にイギリス・リトルダウンハムのCCI4*で戸本一真選手とヴィケンティ号、11月にドイツ・シュツットガルトのCSI5*(150cmクラス)で佐藤英賢選手とチャカーノJRA号、12月にサウジアラビア・リヤドのCSI4*グランプリで川合正育選手とトウキョウドゥソレイ号がそれぞれ優勝した。

パリオリンピック大会に向けて、JRA 特別振興助成事業による馬術競技強化対策等を昨年度に引き続き実施し、そのなかで優良競技馬として新たに障害馬1頭、総合馬1頭を購入した。

令和5年1月1日新たに障害部門のナショナルチームコーチとして、オランダのロブ・エーレンス氏が就任した。

各事業については、以下のとおり

1. 馬術の普及・振興

(1) 馬術に関する情報システムの運営

- ① ウェブサイト及び SNS を運営し、広く一般に各種情報を公開して迅速に広報した。
- ② 会員とのコミュニケーション手段としてウェブサイト・Facebook 等を活用するとともに月刊機関誌『馬術情報』とリンクし、広報活動の充実を図った。
- ③ 利用者の利便性と業務の円滑化を向上させるべく「日馬連情報システム」を活用し、会員情報、乗馬情報、主催・公認大会の情報等を管理した。

(2) 機関誌発行

- ① 紙媒体の特性を活かして情報を的確に伝達し、馬術の振興及び各種記録の保存に資するため『馬術情報』を発行した。

〔発行部数 87,600部 (7,300部×12か月)、対前年度比100.0%〕

- ② 『馬術情報』を日馬連会員、関係団体、マスコミ各社に配布するとともに、一般購読者に販売した。

(3) 馬術関係資料の作成・配布

各種規程集及び日馬連で扱う馬術競技の紹介・ルール解説等の資料を作成し、頒布した。

(4) マーケティング活動

- ① JEF スポンサーとして、オフィシャルサポーター2社（日本航空株式会社・エルメスジャパン株式会社）が就任した。また、JOC×NF ジョイントマーケティングを活用した協力を得ることができた。

〔前年度はオフィシャルサポーター3社、オフィシャルサプライヤー1社、サポーターメンバー1社〕

- ② パートナーシッププログラムメニューを適切に実施し、それ以外のスポンサーメリットやエルメスオリジナル・スポンサーメニューも実施した。

- ③ 馬術ファンサイト「A to Zinba」を活用して、若年層・ファミリー層を中心に馬術競技への興味喚起を図った。

- ④ 馬術振興のための一般寄付として1,120,000円の寄付金を受け入れた。

(5) 主催競技会の放映・動画配信

- ① NHKにおける主催競技会のテレビ放映実施に協力した（Eテレ1回）。

- ② 主催競技会等のインターネットライブ配信を21回（他団体主催11回を含む）実施し、多くの人々に馬術の素晴らしさを伝達した。

(6) 各種表彰

- ① 世界馬術選手権で入賞した選手1名に名誉総裁表彰を、同大会に出場した選手10名及び出場馬所有者に特別表彰を行った。

- ② 永年に亘り馬術界に功績のあった7名13頭（功労者6名、地域功労者1名）を表彰した。また、優秀な成績を収めた人馬4名8頭を表彰した。

- ③ 競技馬の資質向上のための奨励策として、優秀乗馬飼育奨励金を交付した。

- ④ 競技馬の資源確保、調教技術向上のため内国産馬の活用振興を図り、その奨励策として内国産優秀乗馬飼育奨励金を交付した。

- ⑤ 優秀な成績を収めた内国産馬の所有者・生産者を表彰した。

(7) NF 活動（National Federation：国内を統括するスポーツ団体）の推進

- ① （公財）日本オリンピック委員会及び（公財）日本スポーツ協会の会議等に積極的に参加した（22回）。

- ② 国際馬術連盟（FEI）及びアジア馬術連盟（AEF）の活動に参画し（国際会議等3回）、日本馬術界の国際的地位向上に努めた。
 - ③ （公財）日本オリンピック委員会主催の「IF 等役員ポスト獲得支援:AB タイプ・IF 等事務局スタッフ派遣等」説明会に参加、支援金を活用して FEI 総会派遣を行った。
- (8) 馬術基盤の維持拡大
- ① 馬術振興の一翼を担う組成団体に対し、その加盟する団体が所有する馬について、飼育費助成及び優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟及び組成団体の事業費・事務費の助成を行った。
 - ② 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。
 - ③ 国内の乗用馬生産団体に対して必要な助言を行うとともに、内国産馬限定競技を主催大会に組み入れ、内国産馬活用促進のための事業を行った（第74回全日本障害馬術大会2022 Part II 内国産障害飛越競技・第74回全日本馬場馬術大会2022 Part II 内国産選手権、内国産 S クラス、内国産 M クラス、内国産 L クラス）。
 - ④ JRA 馬事公苑整備工事期間中に安定的に各種大会が開催されるよう「各種馬術競技会開催等支援事業」を8主催者18競技大会に対して実施した（内1競技大会は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止、また1競技大会は開催運営費黒字化による申請見送りとなった）。併せて、従前同様競技会への参加活動が行えるよう、関東学生馬術協会加盟馬術部への活動支援を行った。また、馬の多様な利活用に取り組む全国の大学馬術部を対象に、活動支援を行った。さらに、学生馬術競技会等に出場するための馬輸送費の一部補助等、全国の大学馬術部を対象として、全日本学生馬術連盟を通じて活動支援を行った（JRA 特別振興資金事業）。
- (9) ガバナンスの向上
- ① 令和 4 年度スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉適合性審査を受審、「適合」との判定を受けた。また、審査を通じて説明したガバナンスコードの遵守に向けた方策を実施すべく、アスリート委員会の設置や役員倫理規程、会員倫理規程の整備を行った。
 - ② 馬のウェルフェアの推進及び競技者のドーピング防止に関する知識習得のために、e ラーニングコンテンツを作成、「ドーピング防止 e ラーニングについて（選手必見）」として日本馬術連盟公式サイトに掲出した。
 - ③ 選手及び関係者のインテグリティ（誠実さ、真摯さ、高潔さ）に関する意識向上促進のため、JOC セミナー・プログラムに8回41名が参加した。

2. 会員と乗馬の登録

(1) 会員登録

選手、指導者及び団体の活動をサポートするため、会員（6,890：個人6,234、県馬連所属団体404、組成団体所属団体252）の登録を行った。

〔前年度 会員6,759：個人6,099、県馬連所属団体402、組成団体所属団体258〕

(2) 乗馬登録

乗馬の個体情報（識別、成績、所有者）を登録管理して、競技の公正確保と防疫体制の確立を図り、乗馬（3,877）の登録を行った。

(3) FEI 登録事務

FEI 公認競技会に参加する人馬（選手85名、馬匹124頭）及び競技役員のFEI 登録事務を行った。

(4) 登録事務の合理化

「日馬連情報システム」をさらに活用し、登録事務の合理化を図った。

3. 競技会規程の制定及び各種資格の認定

(1) 競技会規程の制定・整備

JEF の各種規程の制定及び改廃を行った。また FEI 各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、FEI 競技規程の国内適用を図った。

(2) 競技役員資格

- ① 競技役員の資格認定・更新・昇格及び技術向上のため講習会・認定試験を実施（8回）するとともに都道府県馬術連盟等が開催する講習会を公認（13回）した。また、コースデザイナー講習会（3回）を実施した。
- ② 講習会の内容の統一のため、講師の研修会を開催（1回）した。
- ③ 国際競技役員養成のための FEI 公認講習会を開催（1回）及び開催支援（3回）した。また、海外で開催される講習会に参加する競技役員の支援を行った。さらに、馬場馬術審判員の技術の向上を図るべく WEB を利用した海外講師によるワークショップを開催（1回）した。

(3) 指導者資格

① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者

（公財）日本スポーツ協会が制定する公認スポーツ指導者制度に基づく統一カリキュラムに則り、国民体育大会馬術競技の監督候補者等を対象とするコーチ3及び少年団・高校・大学馬術部あるいは馬術クラブにおいて馬術競技の基礎的実技指導にあたる指導者を養成するコーチ1を日馬連が養成し、資格の認定を行った（2回）。

② 日本馬術連盟認定指導員

馬術指導者の資格認定・更新及び専門知識習得と資質向上のため、日馬連独自

のカリキュラムに則って講習を行い、検定試験を実施して資格を付与した（1回）。また、指導者資格・更新復活講習会を開催（1回）した。

（4）選手の資格認定

騎乗者資格について、主催・公認競技会及び国際競技会参加のための騎乗者の技術レベルを判定し、認定・登録を行った（A級29名、B級576名、EC級4名、C級181名）。また、都道府県馬術連盟等が開催する騎乗者資格認定のための審査会（B級27回、C級31回）を規程に基づいて公認した。

（5）競技会の公認

会員が主催する競技会を日馬連が公認し、併せて日馬連が指名する者が審判長を担当することにより、競技の安全と公正を推進した（障害111、馬場73、総合5、エンデュランス13：合計202）。

4. 選手の強化

（1）選手強化対策

- ① 競技力強化のため、JEF 海外トレーニング拠点（障害・総合）及び海外コーチングチームを設置した。（JRA 特別振興資金事業）
- ② 優良競技馬による競技活動支援を目的に障害7頭、総合6頭を障害及び総合のナショナルチームメンバーに引き続き貸与した。（JRA 特別振興資金事業）
- ③ 騎乗・調教技術の向上を図るため、国内において総合馬術の強化訓練・合宿等を実施（4回）した。
- ④ 優秀な成績を挙げた選手をナショナルチームメンバーに認定した（障害9人馬・プロGRESS28名・プロGRESSジュニア24名、馬場4人馬・プロGRESS36名・プロGRESSジュニア22名、総合7人馬・プロGRESS17名・プロGRESSジュニア11名）。

（2）ジュニア育成

国際レベルの選手を育成するため、総合馬術プロGRESSチームについては国内強化合宿（2回）を行った。さらに国内・海外の強化合宿等を開催する予定（総合1回、障害3回、馬場2回）にしていたが、すべて新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できなかった。

（3）ナショナルトレーニングセンター（NTC）の活用

- ① ナショナルトレーニングセンター中核拠点施設馬術競技強化拠点としてスポーツ庁の指定を受けた御殿場市馬術・スポーツセンターを競技力強化に活用した（19回74日）。
- ② 医科学サポートに関わるデータ収集として、「馬術における騎乗者と馬の動作解析」を実施した。

5. 競技会の開催

(1) 競技会の開催

馬術競技を志すすべての選手の目標として、各種目・各レベルの年度チャンピオンを決定する全日本馬術大会を開催した。

また、第19回アジア競技大会（2022／杭州）に向けて代表人馬選考競技会を開催したが、同大会の延期発表に伴い、ベルギー・オフラブベークにて開催予定であった障害馬術競技代表人馬選考会（5月6～7日）は中止した。

日程	大会名	開催場所
4月 8～10日	CCI2* - L Miki2022 (兼アジア競技大会代表人馬選考対象競技会)	三木ホースランドパーク
4月27～30日	アジア競技大会馬場馬術代表選考競技会 【日本会場】	三木ホースランドパーク
5月 5～ 8日	アジア競技大会馬場馬術代表選考競技会 【ヨーロッパ会場】	ベルギー・LA SANDRY 厩舎
5月 6～ 8日	第43回全日本ヤング総合馬術大会2022・ CCI2*-L Yamanashi (兼アジア競技大会代表人馬選考対象競技会)	山梨県馬術競技場
6月11～12日	第74回全日本馬場馬術大会2022 Part II	御殿場市馬術・スポーツセンター
7月21～24日	第74回全日本障害馬術大会2022 Part II	三木ホースランドパーク
8月18～21日	第46回全日本ジュニア障害馬術大会2022	山梨県馬術競技場
8月26～28日	第43回全日本ジュニア総合馬術大会2022・ CCI3*-S Yamanashi	山梨県馬術競技場
9月24～25日	第39回全日本ジュニア馬場馬術大会2022	御殿場市馬術・スポーツセンター
10月 8～ 9日	第23回全日本エンデュランス馬術大会2022	山梨県馬術競技場を発着とした特設コース
10月14～16日	第52回全日本総合馬術大会2022・CCI3*-S Yamanashi	山梨県馬術競技場
11月11～13日	第74回全日本馬場馬術大会2022 Part I	御殿場市馬術・スポーツセンター
11月17～20日	第74回全日本障害馬術大会2022 Part I	三木ホースランドパーク

また、全国で開催される公認競技会を全日本大会の予選とすることにより全国規模の馬術の振興を図った。

さらに、会員増加策の一環として、主催大会においてより多くの会員が参加できるような種目を実施できないかについての検討の結果、令和5年度に開催される第40回全日本ジュニア馬場馬術大会2023において U30 馬場馬術選手権及び U30 セントジョージクラス馬場馬術競技を実施することとなった。

(2) 競技会の共催

全国レベルでの技能向上の機会である第77回国民体育大会馬術競技(栃木県)を(公財)日本スポーツ協会及び文部科学省他の団体とともに地方競馬教養センターにて主催した。

また、第82回大会(2028年)～第85回大会(2031年)において馬術競技が隔年実施競技となることが決定したことを受け、毎年実施競技への復帰を目指し都道府県馬術連盟等と意見交換を行った。

(3) FEI 公認競技会

- ① 主要国際大会出場資格取得及び国際レベルの選手層の拡大を目的として、FEI 公認競技会(国際総合馬術大会)を4大会実施した。
- ② 会員団体が主催するFEI 公認競技会7大会(障害7)の開催を支援した。

(4) ドーピングの防止

- ① 主催競技会及びFEI 公認競技会において馬のドーピング検査を実施(11回)した。
- ② (公財)日本アンチ・ドーピング機構と協力して9名に検査を実施し、全員陰性であった。また、ドーピング防止に関する講習会を実施(3回)し、競技者のドーピング防止に関する知識を広めた。

6. 国際競技会への派遣

(1) 世界馬術選手権(2022/ヘアニング)

- ① 障害馬術は、団体戦では4人馬が出場、17位となった。個人戦では川合正育選手が43位、杉谷泰造選手が53位、佐藤英賢選手は70位、齋藤功貴選手は74位だった。
- ② 馬場馬術は、団体戦では3人馬が出場、15位となった。個人戦では林伸伍選手が65位、佐渡一毅選手が69位、原田喜市選手が74位だった。

(2) 世界馬術選手権(2022/プラトーニ・デル・ヴィヴァロ)

総合馬術は、団体戦では4人馬が出場、11位となった。個人戦では戸本一真選手が8位入賞、田中利幸選手が42位、大岩義明選手が63位だった。

(3) その他の国際競技大会等へ選手・役員を派遣(障害3・総合5)し競技力向上に努めるとともに、海外の情報収集を図り、併せて国際交流・親善を深めた。

(4) 2023年CSI-Wワールドカップファイナルの出場権を得た佐藤賢希選手及び次点の草薙達也選手とも同大会に参加しなかったため馬輸送補助は行わなかった。

(5) 海外のFEI 公認競技会に参加する日本選手(障害5名・馬場4名・総合5名)を支援した。エンデュランスは令和4年度FEI 競技会への参加は無かった。

(資料4) 会員と乗馬の登録 (2 関連)

(1) 令和4年度会員登録数

区 分	R4. 3. 31 (A)	入会	退会	R5. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
① 正会員	55	0	0	55	0	100.00
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00
ロ. 組成団体	4	0	0	4	0	100.00
ハ. 学識経験者	4	0	0	4	0	100.00
② 登録会員	6,759	695	564	6,890	131	101.94
イ. 個人	6,099	669	534	6,234	135	102.21
ロ. 県馬連に所属する団体	402	17	15	404	2	100.50
ハ. 組成団体に所属する団体	258	9	15	252	△ 6	97.67
全日本学生馬術連盟	80	1	3	78	△ 2	97.50
全日本高等学校馬術連盟	90	4	9	85	△ 5	94.44
日本乗馬少年団連盟	56	0	2	54	△ 2	96.43
日本社会人団体馬術連盟	32	4	1	35	3	109.38
③ 賛助会員	2	0	0	2	0	100.00

(2) 令和4年度乗馬登録数

区 分	R4. 3. 31 (A)	登録	抹消	R5. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
乗馬登録数	3,843	550	516	3,877	34	100.88

(3) 令和4年度FEI登録数

区 分	選手	馬匹	トレーナー
障害馬術	50	70	
馬場馬術	15	20	
総合馬術	11	26	
エンデュランス	0	0	0
軽乗	0	0	
パラ馬術	9	8	
合 計	85	124	0

(4) 令和4年度FEIパスポート登録数

FEIパスポート (リコグニションカードを含む) 交付・更新・変更数

新規交付	15
更 新	21
所有者変更	20
馬名変更	2
再発行	1

(うちマイクロチップ埋込み 3件)